

AAFC

タイトル：

格言

「指揮者とレコーディング・エンジニアは同格である」

～メディアの変遷とともに収録の方法も変遷するか～

- ① ヨーロッパにはタイトルのような格言があった。  
その意味するものはなにか。
- ② 電気を全く使わないでレコーディングはできたのか。モニタースピーカーが無くても音楽的バランスが取れる方法があったのか。
- ③ 1台のピアノの録音で物凄く苦慮する。
- ④ 音響制作でサウンドエンジニアリングを担当するには感性を持っているほしい。
- ⑤ 感性は、演奏者へ向けるのではなく、聴衆へも向け、一緒に作業をするスタッフへも向けなくてはならない。  
若杉 弘指揮：スターツカペレ・ドレスデンの収録で悩んだこと。
- ⑥ 1982年秋世界で最初のCDが発売になった。38DC-1の録音の経緯とその後の発展と、単純に物理的な良否でないと受け取った学生たち。  
マゼール：ウィーンフィルの日本ライブ収録との関連
- ⑦ ポップスの世界では大きく変化を生じてきた。  
では、アコースティックが主流のクラシック音楽の収録はどう変化するのか。